

サシ芽用土の使い方とその手順

このサシ芽用土は微生物の働きを応用しています。

使用する前に十分に増殖を促し使用することで効果が発揮されます。**※ 殺菌剤は使用しない**
使用する前に2週間(気温により)十分に水分を与え、空気の流通を保ちながら熟成します。

開封し ゆっくりと水分を含ませ、保水剤がゼリー状に見えてきたら、袋の底に穴をあけて水分を落とし土のう袋にうつします。



必要な分をトロ箱等に入れ 十分に水分を含ませた後に、土のう袋に移し熟成しても良い。 **長時間放置しない(30分以内)**



土のう袋にうつし 2~3週間積み込み 微生物の増殖を待つ。。。

ポットに移し水を十分に与え
サシ芽の準備をします。

サシ芽の手順は、
従来と同じです。
サシ穂を調整し、
水上げをし、発根
剤を使用しダンゴ
挿しとする。

発根の始まった直後(サシ芽後12~13日ぐらい)
「みらい」1000倍で灌水し、さらに約1週間後に
再度、「みらい」1000倍で灌水する。
(乾いたら水掛は必要)
スリットから根が出てきたら、もう少しです。
ポットに根がまわってきたら鉢上げする。
(サシ芽より25日ぐらい)



出来るだけ根鉢をくずさずに鉢上げする

使用するおすすめポットはコレ!!

根巻きをしない為、根が老化しないのが最大の特徴です。(鉢上げの適期に融通性ができる)
発根したら液肥を与え、さらに1週間ぐらい育苗し、鉢上げをします。
きわめて生長力の強い苗ができる為、後の管理が非常に楽になります。
鉢上げ後の日除けは必要ない場合が多いです。

サシ芽ポット



6センチ 50ヶ入り
7.5センチ 50ヶ入り
※ 価格は申し込み書参照

スリット及び凸凹が
根巻きを止める



失敗例に学ぶ・・・ 使い方の注意点

このサシ芽用土には、病原菌の増殖を押さえる効果があり失敗例はほとんどなく、最高の苗づくりができます。
しかし病原菌が先に増殖してしまった場合はこの効果は望めません。
これに類する失敗が数件発生していますので、使用法を徹底してください。

電気マット使用の保温に古土を使用

古土に病原菌が残っている場合は、これが先に繁殖してしまう為、サシ芽用土の有益菌の拮抗作用が働かない場合が発生する。
保温の土は古土は使わない。マットは殺菌する。
特に電気マットが30℃を超えると病原菌の増殖が活発になる為、温度管理が重要です。
(設定温度で作動しているか、一度確認をする)



昨年 立枯れが発生した場所でのサシ芽

病原菌が残っている場合が多く、サシ芽用土の有益菌が増殖する前に病原菌が入り込み増殖してしまった場合、特に福助・ダルマの、外気温が高くなってから発生しやすい。
サシ芽箱を置く周りを念入りに消毒するか、別な場所にサシ芽箱を置くと起きない。
消毒は、1~2月に石灰硫黄合剤(約80倍)を散布する。
サシ芽箱を置く前に、周囲を入念に熱湯消毒する。
(竹酢液や木酢液を10倍以内で散布でも良い)

サシ穂は充実した良い物を選択する、その親株の管理が大切

昔から「苗半作」と言われるように、サシ芽の良し悪しは、その年の菊づくりを決定づけてしまうほど重要な作業です。
良い苗を作る為には、親株の管理からサシ芽の採取まで失敗をすることはできません。
苗は多めに作り、根の状態が良く、勢いの良いものだけを残します。
状態の悪い苗を無視して使用すると、鉢上げ後の生育は

当然良くありません。
この状態を挽回する為に、肥料を増すことで対処しようとするのが良くあります。
しかしこれは、培養土の肥料濃度を高めるだけで、かえって新根の発生を悪くしており、根づくりをしにくくし、後々の生育不良の原因を作ってしまう。
さらに生育が悪いから肥料を増す、この悪循環で一年が終わってしまいます。

親株の選び方 —— 優良株を残し、悪い株は淘汰する気持ちが大切 ——

品種が同じなら同じ花が咲く、・・・とは限りません。
遺伝子に微妙な違いがあり、品種本来の特性を維持し優良な花が咲いた株からサシ穂を採取した方が優秀な花の咲く確率は非常に高くなります。
さらに重要なことは、ウイルス、ウイロイド、病原菌に感染

した株からは絶対にサシ穂は採取しないことです。
(本来なら前年度の栽培途中で
処理されていなければならないこと)
この場合は100%病原菌を持ち越し発病し、被害を拡大してしまいます。

サシ穂は展開葉を5~6枚つけた方が発根が早い、鉢上げ後の生育も早い ——

サシ穂は展開葉3枚つけて調整するのが一般的です。
しかし、葉が光合成で作る栄養分を利用して発根させることがわかってきました。
発根の状態をよく観察すると、葉の下になる部分の方が切口の上の方までよく発根しています。
さらに葉っぱを多くつけて調整したサシ穂の方が発根が

早いことでも証明できます。
サシ穂が長く不都合が生じる場合は、サシ穂の採取の約2週間前ぐらいに、ピーナインで止めておけば問題ないと考えます。
(ピーナインの倍率は、品種、草勢によって違います)